

ロイロノート研修で

校内の先生方の ICT 活用の意欲を高める

さらに ICT 活用へ

こんな先生方の姿が生まれました!

- 日常的に「こんな活用してみたよ」など職員間の交流が増えました。
- 「この教科や授業でも使ってみよう。」という意欲的な先生の姿が増えました。

放課後の教室で、研修を行う

ICT コーディネーターが先生役、他の先生方が生徒役で「ロイロノート研修」を行う。

- ・職員全員ではなく、ICT 活用に不安を感じている先生を中心に研修を行い、難しさを感じている点を共有しながら、操作の仕方を研修する。
- ・近くにいる先生方と相談しながら活動できるような雰囲気で行う。



「ロイロノート研修」を行う際のポイント

- 堅苦しくならないように、相談しながら活動をしていく。
- ICT コーディネーターが話す時間を極力減らし、実際にロイロノートの操作活動を重視する。

「ロイロノート研修」による効果



教員間でICTを活用した授業について日常的な交流が増え、有効な情報共有につながる。

- ・「今日、理科で次の単元に関するアンケートをロイロノートで作成して、生徒に答えさせてみたよ。」
 - 「え？ロイロノートでアンケートを作るにはどうすればいいの？」
 - ・「生徒の画面を他の生徒に画面共有して、生徒自身が画面操作をしながら、みんなに説明できたよ。」
 - ・「生徒と資料を共有するためには資料箱に入れておけばいいの？」
- ※上記のような ICT 活用についての会話が増え、情報共有が日常的に行われるようになってきた。

日常的な交流の中で得た新しい情報を活用しようと、教師の主体的な姿につながる。

- ・アンケートを事前に作成して授業の時間に答えさせてみよう。
 - ・生徒にロイロノートで資料を配布してみよう。
 - ・生徒に自分の倒立前転の様子を動画で録画させて、提出箱に提出してもらおう。
- ※上記のような ICT 活用に意欲的な姿が職員室でみられるようになってきた。



教師がロイロノートの使い方について理解を深め、活用していくことにより、生徒の主体的な学びにつながります。

ICTコーディネーターの指導のポイント

- ICT コーディネーターが話す時間を極力減らし、実践した先生の話聞く中で、その先生の意図を共有しながら、他の教師にも活用方法を共有できるようにしていく。

